

やあ、今日は6月にしては気持ちいい天気の日だね。そういえば、きみは数ヶ月前にちょっとだけ話題になった記事のことを覚えているかい？

「Google AdSense だけで家族を養ってきた僕が、今までやってきたブログ運営術をガチで解説するよ」という記事なんだけどさ。

結局この記事は1日で22,000PV（ブログ全体だと31,000PV）、はてなブックマーク数1800超、言及ツイートが600超、いいね数500弱、Pocket1400超とマネタイズ系の記事ではなかなかの結果になったと思うんだよ。たぶんポケットに入れたまま忘れちゃって、そのまま洗濯しちゃった人も多いと思うんだけどね。

こんな良い天気の日、散歩でもしながらこの記事を振り返ってみようかと思うんだ。きちんともう一度読み解いてみる事でわかってくることも多いと思うんだよね。読み解くって難しそうに感じる？だいじょうぶ、僕も大雑把にしか説明できないから。



そう、僕が言いたいのは、あの記事がどのような意図で、どのような仮説を立てて、どうやって訪問者の興味を引いて、口コミで大きな反響を生もうとしたのかってことさ。わかってくれるかい？

まずは意図から試してみようか。あの記事を読んできみはどう思ったかい？「へー、AdSense だけで生きていけるんだ」ってポジティブに感じた？それとも「いやいや釣り記事お疲れさん」とネガティブな感想を持ったかい？実は僕は両方の感覚を持ってもらえるように気を配って書いたんだよ。

良くも悪くも反響を呼べは、ページビューってものは勝手に増えていくもんさ。でも、ブログ自体の信憑性が低ければ反響なんか生めないよね。ただ、幸いにも WP-D はそれなりに知名度が上がってきたブログだったし、僕としては継続的に良質なコンテンツを提供しているメディアだと思っているんだ。だから、話題を巻き起こすための土台としては十分だったんだよ。

記事のコンセプトって重要だと思わないか

記事の中でこんな公式を立てていたのを覚えているかい。

ユニークネス x 明確さ x 得した人の量 = ページビュー

この記事で言うユニークさというのは「Google AdSense で生計を立てていた経験がある」ということと「その方法を体系立てて解説できる」ということなんだ。ユニークといっても突飛である必要は無い。自分では普通のコトだと思っていたとしても読み手に対してインパクトを与えることができれば、それはユニークな、そう、きみ独自のものになるんだよ。いくらきみが面白いと思っても、読み手が興味を持たなければ単なるイロモノなんだよね。

次の明確さについては、残念ながら数稽古なんだ。こればかりは量を書かなければなかなか上達しない。本を一冊書くつもりで一つのテーマについて徹底的に書くのもいいね。10万字ぐらい書いてみようか。それを 1/3 ぐらいまで余計な部分を削ぎ落とす。そして

足りない部分を追加する。このトレーニングを積むことで明確な文章が書けるようになるはずだよ。でも人には向き不向きがあるから、書けるようにならなくても怒らないで欲しいな。

最後に読者のメリットについて考えてみよう。「AdSense で生計を立てられる可能性を提示」、「ブログのPVを上げられる可能性の提示」、「AdSense の収益を向上させることができる可能性の提示」このぐらいかな。これだったらイロモノ的には感じないと思うんだ。

実名と匿名について議論してみようか

実名を使うことの意義は権威だと思うよ。専門家として名前が通った人であれば、そのネームバリュー～Google AdSense 成功事例とか～をうまく活用することで不必要な証明をしなくても文章に納得感を出すことができる。でも、ご存知の通り WP-D というブログは匿名で記事を投稿するスタイルなんだよね。だから権威というパワーが使えない分、内容に信憑性を持たせるためにリアル感と圧倒的な理論武装が必要になってくるんだ。でもね、理論で攻めると文章が硬くなっていく傾向があるから、ときおりスパイスを効かせてユーモア感も出さなければいけない。

ただ、匿名は匿名でいいことも多いのさ。例えばある程度好きな事を書き殴れるというメリット、これは大きいよね。だから～これは後で話そうと思ってるんだけど～サイレントマジョリティーの代弁であったり、ちょっとした反社会性的な印象も交えてゴールドいうキャラクターを創り上げていったんだ。

僕の中でのゴールドさんの仮想人格は、理論派で辛口だけどちょっとお茶目。

「うわ、やめろ、空き缶投げんな(´дc)・ル」とか「ぬこかわいいよ、ぬこ。」とか「はい、先生これから大事なこと言うからメモしてねー。テストに出るよー。」なんてのは、まさにゴールドさんのキャラクターを意識付けるために織り交ぜてみたんだよ。

当たり前のことを読ませるリアル感とリズムってなんだろう



おや、いい風が吹いてきたね。気持ちがいいから、もうちょっと歩きながら話そうか。

あの記事を改めて読んでみると気付くかもしれないけど、本当に当たり前のことを淡々と書いているんだ。一つだけ目立つポイントを挙げるとすると、「ユニークネス x 明確さ x 得した人の量 = ページビュー」という明確な公式を出しただけかな。でも、この公式を提示することで読者の意識がそのワードに集中するから、すべての記事内容を勝手に紐付けて理解しようとしてくれるんだよ。不思議だよな、人間の脳って。

あとは眠くならないように文章にアップダウンを付けて書くだけ。記事のタイトルで読者の期待感を散々煽っておきながら、書き出しで「期待するな」と言う。数万PVなんて簡単に行かないなんて言いつつ、鉄板のテーマを出してみる。実は6,000字超ある文章だけど、リズム感を出すことで長い文章でもさらっと読ませることができると。

サイレントマジョリティの代弁

ぶっちゃけて言うよ、怒らないでね。要は「俺さー、実は秋葉原系のアイドルグループ好きじゃないんだよねー」ってなかなか言えないよねってこと。

薄々、みんなが思っていることを代弁してあげると共感を生むんだよ。場合によっては反感になるかもしれないけど。これはどこに該当するかというと三項の「なんで Apple 好きのブロガーは揃いも揃って MacBook Pro のハック術や iPhone アプリの解説をコンテンツに含めるの?」って事です。」とか「ソーシャルボタンの配置はどうだとか、他人が自分のブログについて言及したツイートをリツイートしたら PV が伸びるとか、そんな小さなことを気にしているから、ブログの成長がそこで止まってしまうのです。」というところ。

ニュアンスでもいいから伝わるかな。

薄々感付いていながらも心の中にそっと仕舞っておくべきものを、声を上げて代弁してあげる事で「あー、俺も実はそう思ってたんだ」という共感を生むんだよね。大切なことだからもう一度言うよ、反感かもしれないけど。だから使い方に失敗すると炎上という楽しい結果になるのさ。

反社会的な発言って怖いかな

別に法的に危ないことではないよ。「うわ、それ言っちゃっていいの?」みたいなニュアンスのこと。あの記事では「サイレントマジョリティーの代弁」と同じ箇所を意識しているよね。

「なんで Apple 好きのブロガーは揃いも揃って MacBook Pro のハック術や iPhone アプリの解説をコンテンツに含めるの?」ってフレーズはやったことある人にとってはチクっとくるよね。このようなアクセントをときおり入れておくことにより、文章に惹き込まれる場合もあるんだよ。ただ、サイレントマジョリティーの代弁と同じように使い方によっては燃え上がる火種になる場合が多いので、細心の注意を払って適度に利用するか、もう炎上サイコーといった心が強い人向けのやり方かもね。

推敲と校正は日にちを分けてみて

けっこう歩いたね。ちょうどよくベンチがあるからちょっと休もうか。



さて話を戻すけど、実は記事自体は公開前日に完成していたんだ。でも、僕としてもとても力を入れた記事だったから、文章を書き終えた当日中に3回、翌日の記事を公開する前に2回、記事公開後に2回、計7回の推敲をしているんだよ。時間に直したら2〜3時間ぐらいかな。恥ずかしい誤字が無いかチェックするのはもちろん、もっとインパクトのある言い回しは無いか、もっと簡潔に説明できないか、もっと分かりやすくできないかななどを検証し、必要ない箇所は削ぎ落として、足りない箇所は加筆したのを思い出すよ。

とか言いつつ、全体公開直前にメンバーだけに先行公開したら、一番大切なタイトルに誤字があったのはおっちょこちょいな僕っぼいミスなんだけどね。これは内緒にしておいておくれよ。

ああ、もうこんな時間か。まだ話し足りないんだけどちょっと涼しくなってきたね。よし、続きは明日にしよう。今日と同じこの場所で待っているから、また話ができることを待っているニャー。

